

# 半導体漫遊記

## 湯之上隆

アベノミクスが少しずつ奏功しているため、多くの半導体や電機メーカーが黒字回復し、業績が上向いている。しかし、2011

年以降に本格化した各社のリストラがやむ気配はない。  
半導体では、ルネサスが1万人以上の希望退職を出したが、15年度までにさらに5400人を削減すると発表している。パナソニックは半導体関係社員を1万4000人から7000人に削減すると発表し、富士通セミコンダクターは既に1963人が希望退職して

### 半導体電機技術者受難の時代

# 簡単に辞めるな

をはるかに上回る厳しさとなっている。まさに半導体や電機の技術者にとっては受難の時代となった。  
そこで、リストラに遭った先輩(?)として、今その苦境に直面している技術者にアド

めるといふ。しかし、転職市場には半導体や電機の技術者が10万人規模であふれかえっている。ある求人サイトによれば、1人の半導体技術者の求人に対して100人が殺到するといふ。  
従って、今と同じ仕事中に会社に転職できる可能性は極めて小さい。一方、今とは違う仕事に就く場合は、給料が半分以下になるかもしれない。それならば、たとえ窓際族にな

人、富士通が5千人規模の人員削減を発表し、シャープ、リコーで数千人規模が希望退職者している。  
私は00年のITバブル崩壊の時に早期退職勧告を受け、02年に日立を退職した。この時のリストラもひどかったが、ここ数年はそれ

まともな企業は、離職期間がある人を雇おうとしない。また雇ってももらえる場合でも、給料は離職期間の長さに反比例する。だから、退職する決意をしたとしても、転職先の内定をもらってから辞めたの100万円に比べてしまった。  
しかしそれでも、早期退職の割増退職金をもらって退職してから転職先を探すより、こちらの方が良かったと思ってる。なぜなら、「肩たたき」に遭い、部下も仕事も取り上げられたら、転職するしかないと思うかもしれない。

表 エレクトロニクスのリストラの状況

業種	企業	発表内容	時期
半導体	ルネサス エレクトロニクス	40歳以上かつ勤続5年以上の社員を対象に希望退職を募集し1487人が応募	2011年1-2月
		約5000人の希望退職を募集し7448人が応募	2012年9月
		40歳以上の総合職などを対象に約3000人の希望退職を募集し2318人が応募	2013年8-9月
	パナソニック	2015年度末までに5400人の人員削減を発表	2014年1月
	富士通 セミコンダクター	2014年度までに半導体従業員を14000人から7000人に減らすと発表	2013年10月
電機等	ソニー	1600人の希望退職を募集し1963人が応募	2013年4月
	シャープ	2012年度にエレクトロニクスを中心に1万人削減する計画を発表	2012年4月
	シャープ	2012年度末までに5000人削減する計画を発表	2012年8月
	シャープ	2000人の希望退職を募集し2960人が応募	2012年11月
	シャープ	5000人を削減する計画を発表	2013年2月
	富士通	50歳以上の幹部社員300人の希望退職を募集し491人が応募	2013年4-5月
	NEC	1万人を削減する計画を発表	2012年1月
リコー	希望退職を募集し2393人が応募	2012年7月	
TDK	1800人の希望退職を募集し2340人が応募	2011年7-12月	
TDK	2年間で1万1000人を削減する計画を発表	2011年10月	

出所:日経エレクトロニクス2013年11月11日号の28ページを参照に筆者作成

(微細加工研究所 所長)

も、定年まで安泰という時代は終焉した。いつ会社が傾きリストラが始まるか分からない。ならば、イザという時のために、常に自分のバリュウを向上させ、社外との人脈をつくる努力が欠かせない。そのため、会社を利用するぐらいのしたたかさが必要だ。諸君の健康を祈る。